

令和7年度

教育委員会の事務の点検・評価報告書
(令和6年度事業分)

令和7年8月

始良市教育委員会

目 次

I	教育委員会の点検・評価制度の概要等	1
II	令和6年度 事務事業の点検・評価	5
1	教育総務課	6
2	学校教育課	11
3	社会教育課	19
4	図書館事務局	25
5	保健体育課	27
【資料】		
	外部評価委員・教育委員 名簿	29
	始良市教育委員会外部評価委員会規程	30
	始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則	31

I 教育委員会の点検・評価制度の概要等について

1 制度の概要について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、「教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価」を行うことが求められています。

この実施に際しては、学識経験者の知見を活用し、その結果については議会に報告し、市民に公表することが求められています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む）を含む）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 始良市教育委員会の点検・評価の実施方針について

始良市教育委員会では、前年度に実施した事務の内容を「始良市の教育」（教育行政要覧）の各課の重点施策を基本に、評価項目に分類しています。

分類した評価項目ごとに事務の「点検・評価シート」を作成し、教育委員会事務局内部で自己評価を実施した後、見直しや改善等を行う必要がある事務について抽出し、各教育委員の点検・評価を受けた後、外部評価委員で評価を行います。

結果をまとめた報告書は、定例教育委員会での議決を経て市議会へ提出し、10月以降、始良市のホームページなどを通じて市民に公表されます。

3 自己点検及び評価における観点

(1) 教育委員会

教育委員会は、その社会的責任を果たすため、『始良市の教育』に掲げた重点施策に基づく教育活動等の状況について、教育水準の向上や活性化の成

果と課題を自己点検し、その結果を踏まえ、優れていた点や改善が必要な点などを明らかにするために評価します。

(2) 教育委員

教育委員は、教育行政の基本方針や重要事項をもとに、重点施策に基づいた教育活動などの状況について、教育水準の向上や活性化の成果と課題を評価します。

(3) 外部評価委員

外部評価委員は、教育委員会の教育活動や自己点検・評価の結果について、第三者の有識者として機能し、その客観性と妥当性を確保する役割を果たします。また、教育活動全般の質の改善や改革に貢献するため、総合的な評価を行い、考察や具体的な助言を提供します。

4 評価点数結果及び各課の評価項目件数

点検・評価した44の事務事業のうち、評価項目として抽出した事務事業は、教育総務課2項目・学校教育課3項目・社会教育課3項目・図書館事務局1項目・保健体育課1項目の合計10項目で、全評価項目の平均評価点数は4.4点でした。

始良市教育振興基本計画に基づく取組の着実な実施と、子育て基本条例に基づく社会全体の協働による子育て・人づくりのための具体的施策を展開しました。

5 評価点数について

評価点数は5段階評価とし、基準等は下表のとおりです。

評価	評価の基準等	達成割合の目安
5	目標を十分に達成し、期待以上の成果が得られた。	8割 ～ 10割
4	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	6割 ～ 8割
3	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	4割 ～ 6割
2	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	2割 ～ 4割
1	目標をほとんど達成できず、成果がなかった。	0割 ～ 2割

6 本年度の自己点検評価報告書作成スケジュール

日 程	内 容
4 月 30 日（水）	※各課へ自己点検評価シートの作成依頼
5 月 28 日（水）	※各課評価シート提出期限
5 月 9 日（金）	外部評価委員委嘱の承認（定例教育委員会）
6 月 10 日（火）	評価項目の承認（定例教育委員会）
6 月 27 日（金）	評価シート提出期限（教育委員）
7 月 7 日（月）	第 1 回 外部評価委員会 〔制度・趣旨説明・教育委員会自己評価の説明〕
7 月 8 日 ～	外部評価委員による評価
8 月 26 日（火）	第 2 回 外部評価委員会 〔事務の点検・評価報告書のとりまとめ〕
9 月 10 日（水）	『点検・評価結果報告書』の議案提出（定例教育委員会）
9 月中旬	『点検・評価結果報告書』の市議会への提出
10 月上旬	『点検・評価結果報告書』市民への公表 (市ホームページに掲載)

7 令和6年度の重点施策・点検評価項目一覧

担当課	重点施策	点検・評価項目	担当課 評価点	外部 評価 対象
教育総務課	1. 教育委員会の活性化の推進	1 教育委員の活動状況	5	○
	2. 適正な人事管理業務の推進	2 職員の資質向上と健康管理の保持	4	—
	3. 適正な財務事務の推進	3 財務事務の効率的な運営・適正な予算の編成及び執行	4	—
	4. 良好な教育環境の整備・充実	4 安全・安心な学校づくりと教育施設整備・教育環境整備状況	5	○
学校教育課	1. 規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進	5 豊かな情操・感性を育てる道德教育の充実	4	○
		6 児童生徒の心に届く生徒指導の充実	4	○
		7 人権教育及び体験活動や読書活動の充実	4	—
		8 幼児教育の充実	4	—
	2. 能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進	9 「確かな学力」の定着	4	○
		10 理数・外国語教育の充実	4	—
		11 特別支援教育や情報教育の充実の推進	4	—
		12 進路指導・キャリア教育の充実	4	—
		13 体験活動や郷土教育の充実	4	—
	3. 児童生徒や保護者、地域社会に信頼される学校づくりの推進	14 魅力ある学校づくりの推進	4	—
		15 学校運営の充実及び教職員の資質向上	4	—
		16 小規模校・複式教育の充実	4	—
		17 教職員の業務改善	4	—
社会教育課	1. 社会教育の基盤づくり	18 関係機関との協力体制の強化及び職員の資質向上	4	—
	2. 青少年教育の充実	19 社会教育リーダーの育成及び社会教育関係団体との連携強化	4	—
	3. 家庭教育成人教育の充実	20 生きる力を備えた青少年の健全育成	4	○
	4. 社会教育施設の充実と利用促進	21 家庭教育の充実	4	—
	1. 生涯学習の推進	22 成人教育の充実、人権教育の推進	4	—
	2. 芸術文化活動の振興	23 社会教育施設の運営	4	—
	3. 公民館施設の充実	24 生涯学習推進体制の整備	4	○
	4. 公民館事業の充実	25 芸術文化鑑賞機会の提供による文化意識の高揚	4	—
	1. 指定文化財登録文化財の保存・活用	26 施設環境の整備	4	—
	2. 埋蔵文化財の保存・活用	27 関係機関との協力体制の強化、生涯学習講座の充実、公民館利用の拡充	4	—
	3. 郷土芸能の保存・育成	28 文化財の管理・保存・整備、文化財の広報・活用・整備	5	○
	4. 施設の充実	29 埋蔵文化財の保護と開発事業との調整	5	—
		30 郷土芸能の振興	5	—
		31 歴史民俗資料館の運営、加治木郷土館の運営	4	—
図書館事務局	1. 図書館のサービス業務と読書活動の充実	32 図書館利用の促進	4	—
		33 図書館資料の充実・活用	4	—
		34 民間活力の導入・広域利用の促進	3	—
		35 心地よい居場所としての図書館づくり	4	—
		36 家庭・地域・学校等における読書活動の推進	5	○
		37 図書館イベントの円滑な運営	5	—
		38 視聴覚ライブラリーの充実	3	—
		39 図書館システムの有効活用	5	—
	2. 始良市立図書館ネットワークの充実			
保健体育課	1. 体力・運動能力の向上	40 学校体育の充実、教科外体育の充実	4	—
	2. 健康教育の充実	41 学校保健の充実	5	—
	3. 安全・安心な学校づくり	42 学校安全の充実	4	—
	1. 食育の推進	43 食に関する指導の充実	4	—
	2. 学校給食の充実	44 安全な学校給食の提供、施設の充実、学校給食費の適正な管理	5	○

Ⅱ 令和6年度 事務事業の点検・評価

No.	評価項目	担当課 評価点	教 育 委 員 評価点	外部評 価委員 評価点	担 当 課 担 当 係
1	01. 教育委員の活動状況	5.0	5.0	4.6	教育総務課 管理係
2	04. 安全・安心な学校づくりと教育施設整備・教育環境整備状況	5.0	5.0	4.6	教育総務課 管理係・施設係
3	05. 豊かな情操・感性を育てる道德教育の充実	4.0	4.3	4.4	学校教育課 教育指導係
4	06. 児童生徒の心に届く生徒指導の充実	4.0	4.0	4.0	学校教育課 教育指導係
5	09. 「確かな学力」の定着	4.0	4.0	4.0	学校教育課 教育指導係
6	20. 生きる力を備えた青少年の健全育成	4.0	4.0	4.4	社会教育課 社会教育係
7	24. 生涯学習推進体制の整備	4.0	4.0	4.0	社会教育課 生涯学習係
8	28. 文化財の管理・保存・整備、文化財の広報・活用・整備	5.0	5.0	4.8	社会教育課 文化財係
9	36. 家庭・地域・学校等における読書活動の推進	5.0	5.0	4.6	図書館事務局 図書館係
10	44. 安全な学校給食の提供、施設の充実、学校給食費の適正な管理	5.0	5.0	4.8	保健体育課 学校給食管理係

令和6年度 事務事業の点検・評価

担 当 課	教育総務課	係名	管理係
重 点 施 策	1. 教育委員会の活性化の推進		
評 価 項 目	01. 教育委員の活動状況		
評 価 の 点	①開催回数等 ②審議件数の妥当性と委員の意見反映 ③委員への定例会資料事前配付と事務局への資料要求等 ④研修の機会 ⑤教育委員会主催行事への参加		
評 価 の 着 眼 点	・ 定例会・臨時会の適切な時期での開催、総合教育会議の対応 ・ 委員の意見反映度 ・ 教育委員と事務局の連携 ・ 県・地区・市独自の研修内容		
成 果	1 定例会教育委員会は、「始良市教育委員会の行政組織等に関する規則」で定める毎月10日前後に開催し、概ね全委員の出席のもと、本市の教育行政における重要事項や基本方針などを審議した。活発な質問や意見等が出され、相互の理解を深める中で議決・承認された事項に基づいた具体的な事務や生涯学習、学校教育、文化振興等の幅広い施策の展開につなげることができた。 また、第1回臨時会（3月）では、教職員の人事異動（内申）を諮り、本市の健やかな学びとより高い教育水準を支える人材の確保と環境を整えることができ、第2回臨時会（7月）では、中学校教科用図書の採択について審議し、適切な教科書採択を行った。 〔予算議案5件、条例・規則等制定・改廃案件20件、附属機関の委員等の委嘱等人事案件12件、その他7件、計44件（前年比+12件）の議案及び報告17件（前年比+4件）〕 2 総合教育会議（12月開催）では、「特別支援教育を取り巻く現状について」をテーマに、国・県の動向及び本市の取組状況や課題について共通認識を図ることができた。 3 教育委員研修を通じて、教育行政の基本方針や重要事項を審議・決定するための識見や知見を更に深め、広げることができた。 〔鹿児島県・地区主催の研修〕 県市町村教育委員会委員研修会（かごしま市民福祉プラザ：10月） 地区教育委員会連絡協議会研修（鹿児島高等特別支援学校・鹿児島地方気象台視察：11月） 〔始良市主催の研修〕 九州管内研修（鹿児島県長島町教育委員会、熊本県宇城市教育委員会：1/24～1/25） 4 教育委員活動としては、積極的に各種行事に参加した。全ての幼稚園、小・中学校の学校訪問を実施し、各園・学校のグランドデザイン（個別の方針や構想）を基にした経営方針の説明を受けるとともに、学力・体力の状況や抱える課題等の実情を把握できたことにより、画一的な教育行政にとどまらず、柔軟で多様性のある教育振興につなげることができた。さらに、1人1台タブレットを活用した新しい時代に向けた学習・授業の様子や、特別な支援を必要とする児童生徒が増加している状況が確認できた。		
課 題	社会情勢や時代の変化に即した研修や活動となるよう工夫する必要がある。		
担 当 課 自 己 評 価 コ メ ン ト	① 3日前までの資料配付により、事前検討が行われ、活発な質問につながっている。今後も分かりやすい補足資料の充実に努め、教育委員会での議論の活発化を図りたい。また、所管の教育行政の個々	評 価 点	5.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

	の課題等について研究し、教育委員の意見を具体化する企画・立案に取り組みたい。 規則等の改正にあたっては、例規等審査委員会を開催し、事前審査及び協議を行い、法令との整合性確保に努めた。 ② 総合教育会議では、「特別支援教育を取り巻く現状」をテーマに取り上げ、教育委員会と市長が活発に議論を交わし、その課題の共通認識を図る有益な場となった。総合的な教育の推進に向けて、今後も市長と教育委員会との意思疎通を図りたい。 ③ 教育委員の県外（九州管内）研修として、鹿児島県長島町教育委員会と熊本県宇城市教育委員会を訪れ、奨学金制度や小中一貫教育の推進について市町の取り組みを学び、教育委員としての知見を広めることができた。今後も研修内容・先進地など研修先を調査し、有益な研修となるよう取り組みたい。 また、定例会後の委員研修会については、今後も課題説明や施設研修等を実施し、各課の課題、市内の教育関連施設の状況を確認していきたい。 ④ 学校訪問では、学校経営の説明、指導主事から学校への指導を聞く中で、積極的な意見交換や質疑が行われ、学校の現状把握と意識改革へとつながっている。 また、学校からの要望や委員から指摘を受け、学校施設の状況を把握し、改善に努めた。		
教 育 委 員 評価のコメント	・定例教育委員会の資料が早目に届けられるので、事前の読み込みがしっかりできる。また、補足資料も充実しており議題の内容が分かりやすい。 ・適切に行われていて、大いに評価できる。 ・研修や給食室別棟見学など、大変充実していた。これは始良市について詳しく知る機会にもなる。今後も知見を深めていきたい。 ・定例教育委員会においては、補足資料等も準備されており、説明も分かりやすく、内容を十分に審議することができ、不明な点は質問により十分に理解することができた。総合教育会議においては意見交換により、現状の課題等を共通理解することができた。学校訪問により、各学校の特色がわかり、状況を把握することができた。	評 価 点	5.0
外部評価委員の コ メ ン ト	・教育委員の方々が、積極的に各種行事に参加して、資質向上に努めているのは評価できる。 ・定例教育委員会の議題については、教育委員の方々からの要望等も聞いて、話題にするのもいいかもしれません。 ・定例会、臨時会における資料配付もしっかり行われており、適切に開催されている。 ・総合教育会議においては、現状課題のあるテーマについて議論がなされ、市長にも知って頂く良い機会である。今後も教育の推進に向けてお互いに共通理解を図って頂きたい。 ・県や地区、市における研修や学校訪問に教育委員が積極的に参加し、知見を深めていることは大いに評価できる。 ・定例教育委員会の開催回数等も適切に行われている。また、事前の資料配付が委員の事前検討、活発な質問につながり会議が活性化するような流れとなっている。 ・総合教育会議での特別支援教育を取り巻く現状について議論が行	評 価 点	4.6

令和6年度 事務事業の点検・評価

	われ、配慮を必要とする子どもが増える中で始良市の教育としての方向性を明確にしながら今後も継続的に議論を行っていただきたい。 ・教育委員研修や学校訪問等、活発な取組がなされている。また、定例教育委員会の資料が早めに配付されることで、教育委員に検討する時間が十分与えられ、活発な議論につながっている。 ・様々な考え方を協議・検討し、始良市の教育施策に反映していただきたい。		
--	--	--	--

令和 6 年度 事務事業の点検・評価

担 当 課	教育総務課	係名	管理係・施設係
重 点 施 策	4. 良好な教育環境の整備・充実		
評 価 項 目	0 4. 安全・安心な学校づくりと教育施設整備・教育環境整備状況		
評 価 の 点 観	・各施設等の整備状況		
評価の着眼点	・主な教育施設整備の工事及び修繕、教育環境整備の実績		
成 果	令和 4 年度に策定したバリアフリー化整備計画を基に、令和 6 年度からバリアフリー化整備工事を行った。(蒲生小、柁城小、重富小、加治木中、帖佐中) また、学校施設及び関連施設の維持管理により、健やかに学習できる施設環境と衛生環境の維持・向上に努めた。 「教職員住宅」： 西始良小学校教頭住宅の屋根塗装修繕を行い、住環境の整備に努めた。また、空き家住宅の草刈り、樹木の剪定等のほかシロアリ防除を行い、維持管理に努めた。 「新築・建替え」： 重富小学校体育館倉庫及び帖佐幼稚園の老朽化した倉庫を撤去し軽量鉄骨造の倉庫を新築した。 「改修」： 始良小学校体育館外壁改修工事、帖佐中 1 7 号棟校舎屋上防水工事等を行い、建物の維持に努めた。 「解体」： 学校・幼稚園施設の解体はありません。 「屋外」： 各学校・幼稚園の樹木について、樹木医による診断結果に基づき緊急度の高い樹木については、学校環境を安全に保つために伐採等の作業を行った。 「調査」： 重富小学校の老朽化の調査のため耐力度調査を行った。 「学校 ICT 整備」： 令和 6 年度教員増に対応するため、教職員用の校務用パソコンを追加整備した。校務用パソコンやプリンターの修繕が前年より増えており、都度対応した。		
課 題	学校施設については、老朽化の状態に応じて優先順位を考慮しながら、計画的な改修、新築、改築等を進める方針である。 また、児童・生徒および特別支援学級の児童・生徒の増加に伴い、新しい校舎や教室を確保するために、増築等の検討が必要である。さらに、老朽化したプール施設や機能低下した校庭(園庭)は、計画的に改修を進める必要がある。 学校の ICT 環境についても、デジタル社会に適した教育環境を段階的に整備し、最適な状態にすることの検討を進める必要がある。また、校務用パソコンなどの故障が増加しているため、予算の確保も必要である。		
担 当 課 自 己 評 価 コ メ ン ト	「改修」「新築、建替え」 ・幼稚園、小・中学校の校舎や屋内運動場は老朽化が進んでおり、築 50 年を超える施設も多く存在する。限られた予算の中で改修に努めたいと考えている。また、屋上防水や外壁改修などの大規模補修についても予算確保を行ってきたが、今後は長寿命化計画に基づいて計画的に改修等を進めていきたい。 「解体」 ・学校内には現在使用していない焼却炉などの施設が多数存在している。また、樹木の剪定や伐採撤去も含め、良好な教育環境を整えるための取り組みを行いたい。 「屋外」 ・校庭や園庭、プールなど、老朽化や摩耗が激しい状況が見られるので、今後の整備が課題となっている。 「学校 ICT 整備」		評 価 点 5.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

	・各種ソフトの活用が進み、定量的かつ定性的な業務改善につながることを期待している。		
教 育 委 員 評価のコメント	・教育施設の老朽化が進んでいるが、長寿命化計画等で計画的に改修等が進められている。生徒増によるプレハブ校舎の新築は、最近の県内ではあまり例がないのではないか。 ・学校施設整備は、ほとんどの学校が老朽化の状態であるが、計画的に整備を行っている。 ・樹木剪定や伐採についても子どもたちの安全のために早めに取り組んでいた。今後も見守りをお願いしたい。 ・計画的に進められている。 ・予算の関係で、主には緊急的に工事が必要なものが中心になってくると考えますが、築50年を経過する施設も多く存在するということです。長期的な計画も並行して進めていただきたい。	評 価 点	5.0
外部評価委員の コ メ ン ト	・限られた予算の中で、長寿命化計画等に基づき、学校施設整備が計画的に進められていることは評価できる。 ・特別支援学級の増加に伴い、教室の確保が大きな課題であると思う。今後、教育に支障がないように計画的な整備を進めてほしい。 ・各施設において、しっかり現状を把握し、優先順位を考慮しながら計画的に改修、新築、改築が行われていると大いに評価できる。 ・学校ICT整備についても、校務用パソコンなどの故障が増加しているようなので業務改善につながるためにも早い対応をお願いしたい。 ・バリアフリー化整備計画を基に、各学校のバリアフリー化が計画的に進められている。全ての子ども達が平等に学べるように引き続き整備を行っていただきたい。 ・プール等の老朽化等の今後の改修については、子ども達が減少する学校区や外部委託等幅広く検討をしていただきたい。 ・築50年を超える施設が多く、その改修については長期にわたることが予想されるが、児童・生徒の安心安全を最優先にして進めていただきたい。 ・限られた予算の中で計画的な整備に努めている。 学校内の危険な要因を取除き、安全・安心な教育環境（トイレの洋式化等）を年次的に整備してほしい。また、ICT環境の整備により、時代に対応した児童や生徒の育成をすすめてほしい。	評 価 点	4.6

令和6年度 事務事業の点検・評価

担 当 課	学校教育課	係名	教育指導係
重 点 施 策	1. 規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進		
評 価 項 目	05. 豊かな情操・感性を育てる道德教育の充実		
評 価 の 点 観	① モラリティ・インクルージメント推進事業 ② 道德教育の実践協力校指定 ③ 保護者や地域との協働による道德教育の実践 ④ 始良っ子の自立を育む教育フォーラム「ハートフルあいらんど」の企画と実践		
評 価 の 着 眼 点	① モラリティ・インクルージメント推進事業の取組状況 ② 道德教育の実践協力校指定の取組状況 ③ 保護者や地域との協働による道德教育の実践状況 ④ 「ハートフルあいらんど」の実施状況		
成 果	① 「学級経営研修会」及び「道德教育推進教師研修会」を開催し、学校における道德教育の基盤作りに努めた。また、道德科指導法開発委員会では、本事業の重点項目についての理解を深める授業ができるように、郷土素材を活用した読み物教材を作成した。また、「二十歳の式典」の参加者を対象に、アンケート調査を行い、本事業の取組が義務教育卒業後にどの程度浸透しているか把握に努め、一定の成果が確認できた。 ② モラリティ・インクルージメント実践推進校の山田中、建昌小が実践発表を行い、学校・家庭・地域の三者協働による道德教育推進のモデルを市内の学校・家庭・地域へ示すことができた。意見交換会では、児童生徒も参加して保護者・地域の思いと子供たちの思いを互いに共有することができた。 ③ 学校・家庭・地域が、協働して子どもの道德性を育むためにどのような取組が必要かを考えるモラリティ・インクルージメント・ミーティングにより、子どもの道德性を育むための具体的な取組を推進することができた。その一例として、「みんなのカレンダー」を作成して、各家庭に配付し、「あいさつ、ルール・マナー、感謝の心、ふるさと」について子どもたちに啓発することができた。また、18歳以上の大人を対象に、「ハートフルメッセージコンテスト」を実施し、35点（前年度比+18点）の応募があった。優秀作品を印刷製本して配付することにより、市民の道德性の向上にも取り組むことができた。 ④ 子どもの豊かな情操を育むための小・中・高生による弁論大会「ことばのいずみコンクール」では、299点（前年度比+42点）の応募があり、優秀賞を受賞した11名によるスピーチコンテストを実施した。また、郷土史家の下豊留佳奈さんに、「いろは歌からのメッセージ」と題して講演していただき、いろは歌から現代にも通じる教えについて考える機会となった。選挙との重なりもあり参加者は250人（前年度比-120人）にとどまったが、家庭・地域の三者協働による道德教育について啓発することができた。		
課 題	① これまでに作成した郷土素材を活用した読み物教材集をより多くの職員が活用できるようにし、本事業の重点項目や取組内容を全職員に浸透させていく必要がある。また、本事業についてのアンケートを『二十歳の式典』参加者や小中学生に対して行うことにより、本事業の効果等を検証していきたい。 ② 実践発表会への参加者を、さらに増やせるような取組を検討事項として考えている。 ③ モラリティ・インクルージメント・ミーティングでの提言を保護者や地域に周知し道德性が向上するような取組については、改善の余地がある。 ④ 「ことばのいずみコンクール」への応募者（特に中高生）を増やすための方策を検討するとともに、講演会まで広く一般市民にも参加を促すための手立てを工夫していく必要がある。		

令和6年度 事務事業の点検・評価

担 当 課 自 己 評 価 コ メ ン ト	① 「学級経営研修会」では、初任1年目、2年目の教員は必ず参加するようにさせ、臨時的任用教諭や初任3・4年目の職員にも参加を促し、研究協議や講演会を実施したことにより、道徳科の授業充実の基盤となる学級経営力を高める契機となった。道徳教育推進教師研修会では、道徳教育推進教師の役割を再確認するとともに、考え議論する道徳の授業の在り方や評価の在り方について意見交換をすることにより、各学校での推進教師を中心とした道徳教育の推進・充実を図ることができた。 ② 三者協働による道徳教育の実践を途切れさせないためにも、今後も市実践協力校の実践及び授業公開を開催し、子どもの道徳性を育むための地域や家庭の役割等について考える機会を設ける取組を継続する必要がある。 ③ 「始良っ子の道徳性を育むために（提言）」を啓発するために「みんなのカンレンダー」を子育て家庭を中心に配付してきたが、印刷製本費の高騰から、新たな方策を検討する時期に来ている。「ハートフルメッセージコンテスト」については市民に浸透し始めていることから、引き続き市民への広報活動を行いたい。 ④ 児童生徒の発表をより充実させるために、発表の事前指導について学校とどのように連携をとっていくかが課題となった。また、講演は広く一般市民の方々にも聞いていただきたい内容なので、多数の参加を促すような取組の工夫が必要である。	評 価 点	4.0
教 育 委 員 評価のコメント	・モラリティ・インプルーブメントの実践発表での意見交換会では児童生徒も参加し、見知らぬ大人もいる中で堂々と意見を述べたり、事例を話したりする様子を見て、普段からの学校生活が充実していることが伺えた。 ・モラリティ・インプルーブメント実践推進校の実践発表会の意見交換会では、児童生徒も参加することで子どもたちの考えを聞くことが出来て、充実した会になったのではないかなと思う。 ・「ことばのいずみコンクール」や「ハートフルメッセージコンテスト」などにより児童生徒はもちろん、市民にも浸透している。このまま継続していただきたい。 ・道徳教育の三者協働での実践は素晴らしい取組であると思う。方法について改善の余地はあるかと考えるが、参加の人数よりも更なる内容の充実を図っていただきたい。	評 価 点	4.3
外部評価委員の コ メ ン ト	・モラルティ・インプルーブメント事業は、始良市の特色ある事業である。学校・家庭・地域の三者に、児童生徒も参加して意見交換ができる機会はとても素晴らしい。 ・モラリティ・インプルーブメント推進事業については、学校はもちろん家庭や地域の方々に参加して頂き、子供たちの道徳性を育む為一緒に考えて考え、お互いの思いを共有できる良い機会になっていると思う。今後も続けていただきたい。 ・ハートフルあいらんどでは、ことばのいずみコンクールやハートフルメッセージコンテストに前年度より多くの応募があった。そのことは大いに評価できる。 ・三者協働での道徳教育の実践をまずは継続的に行うことが必要であると感じる。講演の参加人数を増やすことが先行するのではなく、内容の充実や広報方法を検討していただきたい。	評 価 点	4.4

令和6年度 事務事業の点検・評価

	・みんなのカレンダーについては、家庭での活用は浸透していないように思う。学校との連携を図りながら費用対効果がどうか等の必要性を再度検討いただきながらよりよい物にアップデートしていただきたい。 ・三者協働による道德教育の実践は素晴らしい取組だと思う。目的と課題を明確にして、解決策を検討していただきたい。 ・県内でも先進的な道德教育への取組は評価できる。今後も引き続き積極的な取組を期待する。		
--	---	--	--

令和6年度 事務事業の点検・評価

担 当 課	学校教育課	係名	教育指導係
重 点 施 策	1. 規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進		
評 価 項 目	06. 児童生徒の心に届く生徒指導の充実		
評 価 の 点 観	① スクールカウンセラー配置事業 ② スクールソーシャルワーカー配置事業 ③ スクーリングサポート事業（適応指導教室） ④ スクランブルカウンセリング事業		
評価の着眼点	① スクールカウンセラーの事業実績 ② スクールソーシャルワーカーの事業実績 ③ スクーリングサポート事業実績 ④ スクランブルカウンセリング事業実績		
成 果	① 市独自にスクールカウンセラーを3人配置したことで、児童生徒や、その保護者、教諭等の相談体制の充実につながった。 ② 2人のスクールソーシャルワーカーが、児童生徒が抱える課題や家庭状況の環境改善に向け、学校、関係福祉部局、警察等との連絡・調整を行ったことで、児童生徒の学校・家庭生活の改善につながる事例が見られた。 ③ 適応指導教室への通室児童生徒数は始良教室で22人（前年度比＋1）、1日平均10～20人程度、加治木教室で11人（前年度比±0）となっている。指導員による継続した声かけや支援を受けることにより、学校復帰を果たしたり、上級学校へ進学したりする児童生徒がいた。 ④ 事件や事故など、児童生徒やその保護者に対して緊急を要する場合の心理的カウンセリングを行ったことで、児童生徒一人一人に対応した支援につながった。		
課 題	① 小学校におけるカウンセリングのニーズが高まっており、今後スクールカウンセラーの配置回数、配置場所については検討する予定である。 ② 児童生徒が抱える課題や家庭状況の環境改善により細やかな対応を図るため、スクールソーシャルワーカーの更なる効果的な活用について検討する。特に、不登校児童生徒を支える保護者の不安を解消することが課題である。 ③ 児童生徒の再登校を促すために、学校との連携を更に深める。 ④ スクランブルカウンセリング後の、児童生徒への継続的な支援のあり方について検討する。		
担 当 課 自 己 評 価 コ メ ン ト	① 学校生活だけでなく、家庭での生活に悩みを抱える児童生徒及び保護者にとって、共感的な理解を示し、改善策を提案するカウンセラーの支援による効果は大きい。各学校の実態に応じた最適な配置回数を検討したい。 ② 児童生徒が抱える課題や家庭状況等の環境改善に向け、スクールソーシャルワーカーのニーズはますます高まってきている。引き続き、子ども相談支援センター（あいびあ）との連携をさらに深め、関係機関が連携した総合的な支援につなげていきたい。また、不登校児童生徒の保護者同士が語り合う機会を広げていきたい。 ③ 最終的には、不登校の状態にある児童生徒が教室復帰を含めた学びの場を確保することができるよう、フリースクールとの連携を含めて学校・家庭・地域・行政が一体となった取組をさらに推進していきたい。 ④ 緊急に対応するケースが増えてきたが、カウンセラーとのスムーズな連携・調整により、効果的な支援を提供することができている。		評価点 4.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

教 育 委 員 評価のコメント	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置したことにより、相談体制が整い、家庭、学校、関係機関、団体との連携が図られた。 ・教育委員会とスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携がしっかりとされ、児童生徒や保護者への支援ができていることは大いに評価できる。 ・今後さらにニーズが高まってくることから、スクールカウンセラーの配置回数についても増やせるよう検討していただきたい。 ・各所の連携がよく見える。学校・家庭・地域・行政が一体となった取組をさらに深めていきたい。 ・スクールカウンセラーを3人配置したことで、相談体制の充実につながった事は評価できる。今後も児童生徒一人一人に対応した支援を行っていただきたい。是非、不登校児童生徒の保護者同士が語り合う機会をさらに広げていただきたい。	評 価 点	4.0
外部評価委員の コ メ ン ト	・いじめ・不登校については、始良市のみならず、全国的な課題でもある。重富中学校の取組のように、保護者同士の語り合う場を全市に広げてほしい。 ・スクランブルカウンセリング事業の継続をお願いしたい。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置したことで児童、生徒が抱える課題や家庭状況の環境改善については、各機関と連携を図り、すばやい対応と支援に対して大いに評価できる。今後も継続していただきたい。 ・不登校児童、生徒により添える支援と保護者の思いを聞き、語り合える機会を早目に検討願いたい。 ・不登校生徒を抱える保護者の不安な心情は容易ではない。現在、学校とPTAが連携し、重富中・松原なぎさ小が行っている不登校生徒を抱えている保護者同士、教員、他保護者、関係機関が意見交換を出来るような場所づくりを行っていただきたい。 ・不登校児童生徒を支えている保護者の不安を解消するために、学校と行政が連携して、スクールソーシャルワーカーを効果的に活用していただきたい。 ・学校内の児童や生徒に寄添った相談体制が構築されており、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの積極的な活用を望む。	評 価 点	4.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

担 当 課	学校教育課	係名	教育指導係
重 点 施 策	2. 能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進		
評 価 項 目	09.「確かな学力」の定着		
評 価 の 観 点	① 学力向上アクションプラン推進事業 ② 教育フォーラム ③ 研究指定校補助事業 ④ 全国学力・学習状況調査 ⑤ 鹿児島学力学習状況調査 ⑥ 標準学力検査		
評 価 の 着 眼 点	①-1 小中連携の取組状況 ①-2 指導力向上セミナーの状況 ② 学力向上講演会の実施 ③ 研究指定校補助事業の実績 ④ 全国学力・学習状況調査結果と活用状況 ⑤ 鹿児島学力・学習状況結果と活用状況 ⑥ 標準学力検査結果と活用状況		
成 果	①-1 中学校ブロックごとに、地域の特性や児童生徒の実態を踏まえた基本的な学習・生活習慣に関する共通実践事項を設定して取り組んだことで義務教育9か年を通じた一体的な学びの実現に向けて教職員の指導に一貫性をもたせることができた。 ①-2 学習指導要領の求める授業づくりについて実践的に学べる研修を行ったことで、参加者は、今後の授業づくりに生かそうという意欲を高めた。 これらの取組を通して、令和6年度鹿児島学力・学習状況調査（令和5年度までの鹿児島学習定着度調査）においては、小学校、中学校共に全教科で県平均を上回ることができた。 ② 教育フォーラムでは高橋典久氏を講師として招聘し、市内全教職員を対象に、発達支持的生徒指導による不登校を生まない魅力ある学校づくりについての教育講演会を実施し、2学期以降の教育活動の充実を図ることができた。 ③ 地区指定（西始良小、柁城小）、市指定（重富小）それぞれに対して、運営にかかる費用の補助だけでなく、授業作りや研究推進に係る内容、体制作りについても適宜指導、助言を行うことができた。 ④⑤⑥ 各調査結果については、それぞれの学校で分析を進めるとともに、市としての集計と結果の分析、考察を行い、管理職研修会や学力向上アクションプラン推進会議等で、周知と対応の協議を図ることができるようにしたことで、市全体として重点的に取り組んだり、改善を図ったりすることができた。なお、小学校においては、④、⑤、⑥いずれの調査結果も県や全国と比べて高い通過率を得ることができた。		
課 題	② 講演会で学んだことが各学校での実践に生かされているかを見届けていく必要がある。 ④⑥ 中学校について、全国学力・学習状況調査においては、全国を下回る結果となった。また、NRTにおいては、全般的に学年が上がるごとに偏差値が下がる傾向があった。		
担 当 課 自 己 評 価 コ メ ン ト	①-1 各ブロックでの実践研修をさらに充実させるとともに、その成果やブロックごとの共通実践事項の取組状況について、評価、改善する場としての年3回の推進会議の機能の充実・改善を図っていく。 ①-2 各自の授業作りに生かすことができる実践的な内容にす		評 価 点 4.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

	る、という基本的な方向性を生かしつつ、本市の諸調査結果に基づく分析的な内容や、演習問題を活用した具体的な授業作りに関する内容を取り入れるなど、さらなる充実を図っていく。 ② 不登校状態にある児童生徒の増加もあり、未然防止の観点から、現在の生徒指導の基本的なスタンスである「発達支持的生徒指導」に関する専門家を講師として招聘した。基本的な考え方と、魅力ある学校づくりの具体的な方法について、具体的な事例を基にした講話は分かりやすく、参加者に好評であった。 ③ 令和7年度公開校（県：建昌小、地区：三船小）の授業作りへの関わりとともに、今年度研究初年度の学校については、研究の方向性の策定から緊密に関わっていくようにする。 ④⑥ 結果公表を踏まえた分析を8月中に実施し、9月初旬の学力向上アクションプラン推進会議で共有を図るとともに、各学校における授業改善について具体的に指導していく。 ⑤ 実施に向け、重点課題の定期的な配信や CBT 化の諸準備の取組を促す。		
教育委員 評価のコメント	・確かな学力の定着を目指し、いろいろな事業を展開している。諸調査結果では、成果が見られるが、これからも努力を続けていくことが大切である。 ・不登校の生徒の増加を未然防止するための教育講演会など教職員の意識改善に努めていることは評価できる。それを見届ける手立ても考える必要がある。 ・中学生の学力向上に向け、さらに前進したい。 ・令和6年度鹿児島学力・学習状況調査においては、小学校、中学校共に全教科で県平均を上回ることができたことは評価できる。未然防止の観点から「発達支持的生徒指導」に関する専門家を講師として招聘した事など、目先だけでなく長期的に、今後に備える活動も行っていたきたい。	評価点	4.0
外部評価委員の コメント	・学力向上に向けて、様々な取組を推進していることは評価できる。今後も、学力向上アクションプラン推進事業に基づき、中学校ブロックごとの取組の成果と課題を明確にして、更に進めてほしい。 ・中学校の学力向上に向けて、特に力を入れてほしい。 ・学力向上を目指し、さまざまな事業が展開されている。セミナーや講演会を実施し、教職員の指導の向上、教育活動の充実も図られていること、学力・学習状況調査でも県平均を上回ることができたことは評価できる。 ・発達支持的生徒指導による不登校を生まない魅力ある学校づくりについても全教職員の共通理解を今後も図り、継続して取り組んでほしい。 ・教員への研修の充実が各学校教育の質の向上につながると感じている。研修を現場で活用できるよう、学校側との連携も継続的に行ってほしい。 ・不登校状態にある児童生徒を未然防止するための講演会を行い、現場での意識を改善することは評価できる。継続的に学びの場を提供しながら実践できるようにしていただきたい。 ・学力の定着をめざして、PDCA のサイクルで取組がなされていると思う。引き続き、日頃の授業の在り方について、改善を図っていただ	評価点	4.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

	きたい。 ・今後も確かな学力定着のため引き続き取り組んでほしい。		
--	-------------------------------------	--	--

令和6年度 事務事業の点検・評価

担 当 課	社会教育課	係名	社会教育係
重 点 施 策	2. 青少年教育の充実		
評 価 項 目	20. 生きる力を備えた青少年の健全育成		
評 価 の 点	① 青少年事業の実施（ア あいら未来特使団、イ A I R Aふるさと学寮、ウ A I R Aふるさとチャレンジャー、エ ムーミン講座、オ 市二十歳の式典） ② S S V C＋事業の実施 ③ 青少年団体との連携強化（ジュニア・リーダークラブ、市青少年育成市民会議）		
評 価 の 着 眼 点	・各種青少年育成事業の実施状況 ・各校区におけるS S V C＋事業の実施状況 ・青少年団体の活動状況、青少年育成市民会議の運営状況		
成 果	①-ア 『チャレンジ！日本一』～めざせ富士山頂！3,776mへ挑む～。富士登山を中心とした活動プログラムを実施。小学生7人、中学生7人、高校生5人の19人（前年度同数）全員怪我無く参加した。 ①-イ 小学生15人、中学生3人の18人（前年度比＋3人）が参加し、学校や学年の異なる友達と集団宿泊生活をしながら通学する体験を通して、自主性・協調性・社会性を培った。 ①-ウ 計6回の活動を実施。定員30人に対して65人（前年度比＋34人）の申込みがあった。様々な体験活動、自己評価や他己評価を重視した活動を実施することができた。 ①-エ 計7回12講座を実施。定員510人に対して695人（実人数277人）と多くの申込みがあり、延べ493人（前年度比＋7人）が参加した。親も子も楽しく活動し、学校では学び得ない体験活動の場となった。 ①-オ 対象者863人中610人参加（前年度比－37人）。オープニングアクト（太鼓集団蒲生郷太鼓坊主）を招聘、来賓者25人を迎え盛大に式典を開催することができた。 ② 全小・中学校で年間計画を作成し、コーディネーターを主体に、多様な活動を実施した結果、地域と連携することができた。 ③ 地区・県が主催する研修会へ参加した。 【参加者数】地区…1人、県…3人、九州…1人（中止） 市民会議においては、青少年育成部会では各校区コミュニティ協議会から部会員を選出し、情報交換を実施した。家庭部会では、あいさつ運動標語を募集6,892点（前年度比＋176点）し、のぼり旗を作成し、あいさつ運動の啓発に努めた。環境部会では、インターネットの利用、自転車マナー等に関する啓発チラシ作成及び配布を行った。		
課 題	① 学寮での応募者の減少 ② 中学校区における活動の停滞及び小学校区における充実度の差異 ③ 児童生徒及び保護者の地域活動への参加		
担 当 課 自 己 評 価 コ メ ン ト	①-ア 事前研修の韓国岳登山は天候不順のため実施できなかったが、3回の事前研修と2回の事後研修により学びを深めることができた。今後も魅力ある活動を継続していきたい。 ①-イ 子ども同士で学習する時間を設けることで、互いの学習能力を向上させると共に、上級生に自己有用感を高めることができた。今後も、規則正しい生活習慣を身につけるための体験活動に注力していきたい。 ①-ウ 昨年度の課題である活動の最後に行う振り返りの時間については、十分に確保することができた。今後も魅力ある活動を設定し	評 価 点	4.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

	たい。 ①-エ より多くの子どもたちが参加できるように配慮できた。今後も魅力ある活動を設定し、貴重な体験活動の場にしていきたい。 ①-オ 会場内は多くの参加者で賑わい、晴れやかな式典となった。 ② 「SSVC+だより」を年3回発行し、地域学校協働活動についての周知を行うことができた。各校区の活動が充実できるように支援していきたい。 ③ あいさつ運動標語は、前年度より応募が増えて、市民の関心が増していることが伺える。一方、地域活動への児童生徒及び保護者の参加は、子ども会加入率の低迷もあり、地域でも子どもが主体的に活動することの重要性を啓発していきたい。		
教 育 委 員 評価のコメント	・家庭や学校ではなかなか体験できないような青少年育成活動は、とても有益である。これからも工夫し、継続していくことが大切である。 ・AIRAふるさと学寮の応募人数減少は残念である。魅力を伝える手立てを工夫してもらいたい。 ・SSVC+事業の実施については、とても良い結果をもたらしていると思う。学校とも連携してさらに充実させていただきたい。 ・子ども会の脱退、休会が増えている中、新たなコミュニティの在り方が必要だと思う。 ・事業自体は十分充実しており、子供たちにとって貴重な体験の場になると考えます。事業の活動報告の手段がもっとあれば、認知度は上がると考えます。	評 価 点	4.0
外部評価委員の コ メ ン ト	・様々な青少年事業に、多くの児童生徒が参加し、貴重な体験の機会があることは、とても素晴らしい。 ・子どもたちの貴重な体験の場である「ムーミン講座」への支援をお願いしたい。 ・各種青少年事業について、多くの子どもたちがいろいろな体験を通して自主性、協調性、社会性を培うことができていることは素晴らしい。今後も継続してもらいたい。 ・SSVC+については、地域学校協働活動についての周知が年3回「SSVC+だより」にて行われており、各学校での活動においても協力して下さる地域の方々に感謝し、評価したい。 ・青少年事業は、子ども達が貴重な体験ができる事業でとても重要な学びの機会となっている。今後も改善をしながら継続的に事業実施していただきたい。 ・地域活動への児童及び保護者の参加は、各自治会で子ども会の存続が厳しい状況の中で新たなコミュニティも考えていく必要があると思う。 ・地域や世代間のつながりが薄れていく中、始良市独自の取組は評価ができる。 ・今後も地域や世代間の連携強化につながる施策を期待する。特に子ども会の活性化を図る取組は期待する。	評 価 点	4.4

令和6年度 事務事業の点検・評価

担 当 課	社会教育課	係名	生涯学習係
重 点 施 策	1. 生涯学習の推進		
評 価 項 目	24. 生涯学習推進体制の整備		
評 価 の 点 観	① 生涯学習推進会議の開催 ② 市生涯学習フェアの開催充実 ③ 生涯学習情報の提供		
評価の着眼点	生涯学習フェアの開催実績		
成 果	① 生涯学習推進会議：企画委員会及び推進会議を年間各2回開催した。 ② 市生涯学習フェア(2/23) 始良公民館 来場者数 370 人(前年度比+273 人) 生涯学習功労賞表彰・表彰伝達、講演「出会いに感謝 ～思い続けたオリンピック～」 講師 宮下 純一氏(北京五輪競泳メダリスト・スポーツキャスター)、生涯学習展示、学習成果発表、市生涯学習事業展示等を開催した。 ③ 講師・研修先一覧表 R7年3月改定、市内講師 174 人、市外講師 81 人		
課 題	② 生涯学習フェアの内容充実及び広報 ③ 市民の多様なニーズに応じた指導者の発掘・情報提供		
担 当 課 自 己 評 価 コ メ ン ト	① 始良市生涯学習推進計画に基づいて、全庁体制で生涯学習の推進を今後も進めたい。 ② 生涯学習の推進がまちづくりの基盤になることへの理解を深める機会として、生涯学習フェア等で啓発に努めたい。生涯学習フェアは、成果発表やプログラム内容を工夫した魅力あるフェアとしていきたい。また、開催についての広報・周知を行い引き続き多くの来場者の確保に努めたい。 ③ 各種学級や講座、講演等で幅広く活用できるように、新たなニーズに対応した講師を増やしたい。	評価点	4.0
教 育 委 員 評価のコメント	・生涯学習フェアでは、多くの社会教育関係団体や生涯学習実践者などと連携して開催している。内容も工夫されているが参加者の増加が課題である。 ・課題について来年度につなげてほしい。 ・生涯学習フェアへの来場者数を増やし、更に生涯学習の推進を進めたい。 ・生涯学習フェアについては昨年に引き続き、鹿児島出身の講演者を招致されたことは、良かった。来場者が昨年に比べ半数近くになっていたことは、イベントの成功は来場者数ではないが、時期なのか、時間なのか、内容なのか不明であるが、検討の余地はあると考える。	評価点	4.0
外部評価委員の コ メ ン ト	・生涯学習フェアの参加者が前年度に比べ半数近くになっていることは、とても残念である。魅力ある生涯学習フェアの在り方について、十分な検討をお願いしたい。 ・講師・研修先一覧表は、始良市退職校長会のリストも追加していただき有難い。 ・各種学級や講座・講演会が幅広く展開されていることはとても評価できる。 ・参加者の増加が課題とのことなので、広報・周囲の充実を更に図って頂きたい。 ・生涯学習フェアは、来場者数が前年度比で大きく減少している。これまでのやり方に捉われず、時期等も幅広い視点での検討を行っていただきたい。 ・生涯学習情報の提供は、研修を行う中での講師選定に非常に役立つ	評価点	4.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

	ており、非常にありがたい。 ・大変魅力ある活動がなされており、児童生徒の成長につながっていると思う。協力してくださる地域の方々との連携を大事にしていきたい。 ・生涯学習フェアの広報・周知に努めていただきたい。 ・生涯学習の推進には全市的な取組が必要であり、市長部局との連携強化を期待する。		
--	---	--	--

令和6年度 事務事業の点検・評価

担 当 課	社会教育課	係名	文化財係
重 点 施 策	1. 指定文化財登録文化財の保存・活用		
評 価 項 目	28. 文化財の管理・保存・整備、文化財の広報・活用・調査		
評 価 の 点	① 文化財保護審議会の開催 ② 文化財の保存・整備 ③ 文化財案内・解説の充実 ④ 文化財の情報発信 ⑤ 郷土学習の充実		
評 価 の 着 眼 点	・文化財保護審議会の開催実績 ・文化財の整備・活用状況 ・郷土学習の実施状況		
成 果	① 年4回の審議会で新指定文化財候補について協議し、文化財新指定1件を答申。令和7年4月8日付で指定。総数208件（指定195件・登録13件） ② 指定史跡は、市シルバー人材センターへの委託、歴史ボランティアによる巡回・清掃、職員の定期清掃を組み合わせ、通年的に維持管理を図った。 蒲生のクスは、国庫補助事業で神社進入路の土壌改良・透水性踏圧防止舗装を実施した。平成29年度から実施してきた保護増殖工事は完了。 建昌城跡は、剪定枝チップの敷設による防草化（緑のリサイクル事業）を継続実施し、年間を通じて山城を散策できる環境を整備した。 ③ 指定文化財説明板10件、史跡標柱1件を修繕した。また、建昌城跡には主要な曲輪に曲輪名の標識を設置した。 ④ 市報「あいらひすとリー便」で、毎月始良市内の平安時代史跡を紹介した。指定・登録文化財マップは適宜増刷、文化財リーフレット7件を最新情報に更新・印刷し、資料館や観光交流センター等で配布した。 ⑤ 歴史民俗資料館で「ふるさと歴史講座」（参加者延べ343人）、「古文書講座（超入門）」（参加者延べ86人）、「日本遺産に学ぶ近世麓と中世山城講座」（参加者延べ70人）を開設した。 史跡めぐりは、5月に「歩き・み・ふれる歴史の道ー建昌城跡探検！」（参加者29人）、11月に「始良カルデラと向江新田周辺史跡めぐり」（参加者17人）を実施した。 松原なぎさ小、蒲生中、柁城校区コミュニティ協議会、生涯学習講座、ムーミン講座、市子ども会交流会等で、始良歴史ボランティア協会と協力して史跡めぐり等の支援を行った。		
課 題	② 建昌城跡の今後の活用 ②・⑤ 歴史ボランティアの高齢化		
担 当 課 自 己 評 価 コ メ ン ト	① 審議会では、指定文化財候補について視察・協議し、1件を新規指定することができた。 ② 史跡見学者により良い状態を提供できるよう、巡視を強化し、通年的な維持管理を図っている。また、文化財の整備は計画通り進めることができた。 ③ 文化財解説板の悉皆調査に基づき、老朽化した解説板と標柱を更新・修繕した。 ④ 新聞や市報、市HP、市公式LINEなどで文化財の情報発信を実施した。 ⑤ 史跡めぐりは、始良歴史ボランティア協会と連携して実施することができた。総合的な学習や出前講座など学校からの依頼も	評 価 点	5.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

	徐々に増加しているが、さらに児童・生徒が実物に触れ歴史を身近に感じる機会を創出していきたい。		
教 育 委 員 評価のコメント	・ 始良市内には、県下でも数多い文化財がある。子どもを含む市民に紹介するための事業を展開している。健康づくりを兼ねた史跡巡りの回数を増やすことも必要ではないか。 ・ 市シルバー人材センターや歴史ボランティアによる巡回・清掃など通年的に維持管理されてありがたいことである。建昌城跡の活用について更に取り組んでほしい。 ・ 歴史ボランティアの方々の学校への招聘はとてありがたいことである。児童・生徒が実物に触れ歴史を身近に感じる機会を作ってほしい。 ・ 保存、整備、広報、学習がきちんとなされている。 ・ 今後も引き続き、文化財の維持管理、いろいろな媒体での情報発信をよろしくお願いいたします。児童・生徒が実物に触れ歴史を身近に感じる機会を今以上に創出して下さい。	評 価 点	5.0
外部評価委員の コ メ ン ト	・ 文化財の管理、保存、維持のためには多額の予算が必要である。そんな中、建昌城跡の整備事業が、多くの市民にとって散策できる素晴らしい環境になることを期待したい。 ・ 文化財について新聞や市報、市HPや市公式LINEにて情報発信できていることは評価できる。 ・ 文化財の整備についても、市シルバー人材センターや歴史ボランティア協会、職員の方々において、巡回や清掃など通年的に維持管理が行われていることに評価できる。 ・ 始良市の文化財を次世代に残し繋いでいくための管理がしっかりと出来ている。中学校での学習でも始良市の文化財等を調べて、全校生徒にプレゼンする時間があり、子ども達もたくさんの事を調べて学習に取り組んでいる。本物を知り、本物に触れる体験ができるような環境を大切にしていきたい。 ・ 市報「あいらひすとり一便」は大変興味深い内容で、効果的な情報発信になっていると思う。児童生徒が史跡をめぐる機会の創出に努めていただきたい。 ・ 県内有数の文化財の保存・整備への取組は評価できる。 ・ 今後はこれらの文化財を観光資源としてさらに活用する、市長部局とともに新たな施策を展開してほしい。	評 価 点	4.8

令和6年度 事務事業の点検・評価

担 当 課	図書館事務局	係名	図書館係
重 点 施 策	1. 図書館のサービス業務と読書活動の充実		
評 価 項 目	36. 家庭・地域・学校等における読書活動の推進		
評 価 の 点	① 子ども読書活動推進事業の充実 ② こどもの読書週間における読書啓発・推進の取組 ③ ブックスタート事業の充実（始良市子ども館「ちるどん」との連携） ④ 移動図書館車及び巡回文庫の充実 ⑤ 出前読み聞かせの実施		
評 価 の 着 眼 点	① 子ども読書活動推進事業実績 ② こどもの読書週間における読書啓発・推進の取組状況 ③ ブックスタート事業の実績と、ちるどんとの連携開始 ④ 移動図書館車及び巡回文庫の実績 ⑤ 出前読み聞かせの実績		
成 果	① 子ども読書活動推進事業「ものがたりレシピをいただきます」では、学校や給食担当栄養士と連携し、希望校12校 2,534人（前年度比+4校+723人）への出前読み聞かせと同時に給食レシピの紹介や関連図書の配付を行ったり、読書食べ物ビンゴ、読書感想記入リーフレット等に取り組んだりなどして読書活動推進に努めた。 ② 4月23日～5月12日の子ども読書週間の啓発として、中央、加治木、蒲生それぞれで図書館スタンプカードや本のポップ展、絵本の福袋などを実施し読書推進活動を行った。 ③ ちるどん担当者と協議し、図書館とちるどん連携協働で行う子育て支援として、毎月第1金曜日10時からちるどん多目的室にて、4～5か月児を対象として、ブックスタート事業を2月からスタートした。図書館からは赤ちゃんへのおはなし会の実施や読み聞かせの効果・方法について、ちるどんからは施設利用案内などを実施し、ブックスタートセットを配付した。（配付数490人） ④ 移動図書館車「あいあい号」で保育園、幼稚園、小中学校等30か所（前年度比+1か所）利用人数9,318人（前年度比+481人）、貸出冊数27,074冊（前年度比+2,813冊）。また、「巡回図書」として施設26か所（前年度比+4か所）を実施し、図書館に出向くことができない子どもたちへの読書活動の推進を行った。 ⑤ 出前おはなし会14回 611人（前年度比+4回+101人）		
課 題	① ものがたりレシピ実施図書の選定方法、高学年、中学生への浸透 ② 子ども読書週間の周知 ③ ブックスタート事業参加者の増、来られない方への配布方法 ④ 新規コース増に伴う調整 ⑤ 対応可能時間、対応人数の調整		
担 当 課 自 己 評 価 コ メ ン ト	① 給食実施や読書推進等において、全ての学校で積極的に事業に取り組み、児童生徒の読書意欲の向上が図られた。食と読書の関連付けについては学校独自の取り組みもなされ、多くの子どもたちが楽しみながら食育や読書に取り組む様子が見られた。 ② それぞれの館で特色のあるイベントを実施できた。子どもたちの喜ぶ様子が見られ読書推進に繋がった。 ③ 乳幼児の集団健診時に取り組んでいた事業がコロナ過で実施できず、郵送という形で配付していたが、子ども館と連携し対象者に集まってもらい、読み聞かせ事業と同時に配付できるようになっ		評 価 点 5.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

	た。今後も乳幼児期から読み聞かせに取り組まれる家庭を増やしていきたい。 ④ 移動図書館車も巡回図書も多く、多くの学校、施設が利用しており新規の要望も増えているが、ほとんど余裕がないため利用者数に基づき調整していきたい。 ⑤ 出前おはなし会の申し込みに対し、なるべく実施できるよう日程や人員の調整を行った。急な依頼や時間外の依頼について対応できない場合もあるため、ルールを設けたい。		
教 育 委 員 評価のコメント	・「ちるどん」と加治木図書館がオープンした。利用者は確実に増加することが予想されている。中央、加治木、蒲生の三図書館が連携し、更なるサービスの向上を期待している。 ・移動図書館「あいあい号」は、図書館に出向くことができない子どもたちが本に親しむ方法なので、ぜひ続けてほしい。 ・ブックスタート事業をちるどんと連携して行うことが出来たことは大いに評価できる。 ・様々な方法で読書活動の推進がなされている。このまま継続していただきたい。 ・加治木図書館も新しくなり、更なる図書館サービスの維持管理、充実を図っていただきたい。	評価点	5.0
外部評価委員の コ メ ン ト	・ちるどん通信等「ちるどん」の広報活動はとても素晴らしい。加治木図書館と共に、多くの市民の活用が期待できる。 ・図書館の利用者が更に増えることを期待している。 ・食と関連付けた読書活動の取り組みや図書館で特色あるイベントの開催、移動図書館車の巡回、ちるどんと連携したブックスタート事業などさまざまな方法で読書活動が行われていることに評価できる。 ・子ども読書活動推進においては、各学校でしっかりと取り組まれており、意図的に組み込まれた時間の中で読書を楽しんでいる様子が見られる。また、ものがたりレシピ実施図書では、子ども達が楽しみな給食となっており食と読書の興味を更に深めている取り組みとなっている。 ・新しい施設がオープンしたことで、さらなる読書活動の推進が期待される。 ・中央図書館及び加治木図書館の供用開始による、利用者の増加が期待される。また、蒲生総合支所内の図書館（室）の整備が待たれる。他市町との広域連携や学校図書室との連携強化をさらに推進してほしい。	評価点	4.6

令和6年度 事務事業の点検・評価

担 当 課	保健体育課	係名	学校給食管理係
重 点 施 策	学校給食の充実		
評 価 項 目	4 4. 安全な学校給食の提供、施設の充実、学校給食費の適正な管理		
評 価 の 点	① 学校給食提供体制の充実 ② 効果的、効率的な調理場の運営 ③ 学校給食費の適正な徴収・管理		
評 価 の 着 眼 点	① 給食内容及び衛生管理体制の充実 ② 調理作業の効率化及び施設設備の修繕 ③ 新学校給食センター整備の取組状況 ④ 学校給食費管理システムを活用した管理状況		
成 果	① 安全・安心な学校給食の提供では、給食運営委員会や栄養教諭連絡調整会の開催などに取り組んだ。 「食物アレルギー対応の手引き」に基づいて、全小・中学校で統一した取組を行った。また、栄養教諭や調理従事者等による徹底した衛生管理によって、食中毒関連の事案は発生しなかった。 新たな学校給食センターの供用も控えており、今後、食育の推進や地域貢献などの観点から、地元産食材の活用の取組を更に進めていくため、昨年度に引き続き（一財）都市農山漁村交流活性化機構の「地産地消コーディネーター派遣事業」を活用して、生産者側と発注者側それぞれの課題等を抽出するための意見交換会を開催した。交換会で意見としてあがった、野菜の皮むきなどの一次加工について、実証実験として里芋の皮むきを蒲生農産加工センターに依頼し、それを蒲生学校給食センターで使用した。処理された里芋は衛生的・仕上がり共に問題はなく使用することができた。 食用油や小麦粉などの価格高騰に伴い令和5年度から令和6年度にかけて増額改定した学校給食費について、増額分のうち上半期分を補填し、保護者の負担軽減に努めた。なお、その財源は重点支援地方交付金を活用した。 ② 施設の充実については、調理機器の計画的更新を行いながら、設備の修繕にも迅速に対応し、安定した運営ができた。 ③ 新学校給食センターの整備については、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」や国が示したガイドライン等に基づき、整備・運営を実施する事業者を適正に選定することができた。選定にあたっては、学識経験者等で構成するPFI事業審査委員会を4月から12月までの間で計4回開催し、公平性・透明性・競争性を確保した中で、審査を行った。選定された事業者は、当該事業を実施するための特別目的会社「PFI始良市スクールランチ株式会社」を設立し、市は2月に当該会社と事業契約の仮契約を締結し、令和7年第1回定例会で議決され本契約となった。 ④ 令和6年度から市で管理することになった学校給食費について、学校給食費管理システムに喫食者情報や口座情報などを登録し、適正に徴収することができた。併せて、これまで各学校で管理していた未納分の債権のうち、債権者の情報が判明しているものだけ継承した。		
課 題	地元産食材の活用の取組として実施した野菜の皮むき等の一次加工について、今後、取り扱う野菜の種類を増やすなど取組をさらに進める必要がある。 新学校給食センター整備では、建設工事、施設運用に伴う地元住民の懸念事項について、丁寧に説明を行い、理解を求めながら進めていく必要がある。		
担 当 課 自 己 評 価 コ メ ン ト	・栄養教諭連絡調整会は、衛生管理や危機意識の高揚についての認識を共有できる貴重な機会となり、食中毒や異物混入の防止が図られている。		評 価 点 5.0

令和6年度 事務事業の点検・評価

	・栄養教諭を中心に作成した始良市学校給食衛生管理マニュアルをすべての給食室で徹底したい。 ・夏場に熱中症により、具合が悪くなった調理員が複数人いたので、こまめな水分補給や休憩をとるなど体調管理を徹底させたい。 ・保健体育課と農政課が連携を図りながら、地元産の食材の利用促進に努めていきたい。 ・調理機器等の保守点検は、食の安全や調理員の作業環境保持に必須であることから、計画的な実施に努めたい。 ・新学校給食センターの整備については、令和9年9月の供用開始に向けて、要求水準書や事業契約書等との整合性を確認しながら、当事業の受託者である「PFI 始良市スクールランチ株式会社」と協議を進めていきたい。		
教 育 委 員 評価のコメント	・新学校給食センター整備については、業者と本契約となった。ここまで大変だったが、これからも供用開始まで安全に、確実に事を進めていただきたい。 ・学校給食の公会計化は、学校の業務改善の点からも非常に良い取組である。スムーズな運営がなされることを期待したい。 ・このまま安全安心な給食の提供を続けてほしい。 ・安心安全な給食は、多くの部署や人が関わって成り立っていると考え。食中毒や異物混入が無いのは当たり前ではなく、関わる方の業務の徹底かと考えます。材料の燃料の価格高騰、器具の補修点検など課題はありますが、引き続き連携して進めていただきたい。	評 価 点	5.0
外部評価委員の コ メ ン ト	・学校給食の公会計化は、学校の業務改善にもつながり、大いに評価できる。 ・新学校給食センターの整備については、令和9年9月の供用開始に向けて、計画的に確実に事業を進めてほしい。 ・学校給食提供にあたり、給食運営委員会や栄養教諭連絡調整会の開催を経て、栄養教諭や調理従事者等による徹底した衛生管理が行われていると評価できる。 ・夏場の調理に関しては、熱中症対策をしっかりと、調理員の体調管理に今後も努めてほしい。 ・安心安全な給食提供は日々の衛生管理及び管理体制の徹底によるもので食中毒関連の事案が発生していないことに感謝です。今後も引き続き連携し安心安全な給食提供に努めていただきたい。 ・市で管理する学校給食費については、学校側の事務負担及び管理の負担も減り非常に良い。徴収当初から大きな問題も無く運用され、今後も適正な徴収・管理に努めていただきたい。 ・今後も安全な学校給食の提供に努めていただきたい。 ・公会計化により学校の事務（私費会計）の軽減が図られている。 ・老朽化した給食センターや給食室の改善のため、新センター整備による安全・安心な給食の供用および学校間の格差解消を期待する。	評 価 点	4.8

始良市教育委員会外部評価委員会規程

(設置)

第1条 始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則(平成22年始良市教育委員会規則第5号)第4条の規定に基づき、始良市教育委員会外部評価委員会(以下「評価委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 評価委員会は、始良市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、次に掲げる事項について審議し、その結果を答申するものとする。

- (1) 教育委員会の事務の点検結果の評価に関すること。
- (2) 教育委員会の委員の活動状況点検結果の評価に関すること。
- (3) その他教育委員会の点検及び評価に関し必要と認めること。

(組織)

第3条 評価委員会は、5人以内の評価委員をもって組織する。

2 評価委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育、社会教育及び社会体育に知見を有する者
- (2) 芸術文化関係に知見を有する者
- (3) P T A連絡協議会代表者
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 評価委員の任期は、委嘱日から当該委嘱日の属する翌年度末までとし、補欠評価委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

(会長)

第5条 評価委員会は、会長1人を置き、評価委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、評価委員会を代表する。

(会議)

第6条 評価委員会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、評価委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席評価委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 評価委員会の庶務は、教育総務課において処理する。

(委任)

第8条 この訓令に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って定める。

附 則

この訓令は、平成22年 3 月23日から施行する。

附 則(平成24年 6 月14日教委訓令第11号)

この訓令は、告示の日から施行する。

○始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則

平成22年3月23日教育委員会規則第5号

始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則

(趣旨)

第1条 この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「法」という。）第26条の規定に基づき、教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象及び時期)

第2条 点検及び評価の対象は、法第23条各号に掲げる事務及び教育施策上の重要課題とする。

2 点検及び評価は、毎年度、前年度の前項に規定する事項について行うものとする。

(資料の整理等)

第3条 点検及び評価に資するため、事務局（法第18条に規定する事務局をいう。）は、前条第1項に規定する事項について、必要な資料を整理する。

(教育に関し学識経験を有する者の知見の活用)

第4条 法第27条第2項の規定に基づき、点検及び評価を行うに当たり教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、始良市教育委員会外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置するものとし、必要な事項は、別に定める。

(議会報告等)

第5条 始良市教育委員会は、評価委員会からの答申を踏まえ、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、始良市議会に提出するとともに、これを公表するものとする。

(庶務)

第6条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育総務課において処理する。

(委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成22年3月23日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日までに、合併前の教育に関する事務の点検及び評価の実施に関する要綱（平成21年加治木町教育委員会要綱第1号）又は教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則（平成21年始良町教育委員会規則第1号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの規則の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則（平成30年3月30日教委規則第3号抄）

(施行期日)

1 この規則中は、第1条、第3条及び第4条の規定は公布の日から、第2条の規定は平成30年4月1日から施行する。

(始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則の一部改正に関する経過措置)

4 この規則の施行の際現に在職する教育長の在任特例期間においては、第4条の規定による改正後の始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則第1条の規定は適用せず、第4条の規定による改正前の始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則第1条の規定は、なおその効力を有する。

始良市教育委員会外部評価委員

番号	氏 名	経 歴 等	備 考
1	宇都 尚美	加治木高等学校長	学校教育
2	和田 幸一郎	元志布志市教育委員会教育長	教育委員会が必要と認める者
3	百武 美津代	元始良市教育委員	社会教育
4	竹 下 宏	元始良市教育委員会教育部長	学校教育、社会教育、社会体育
5	道山 大吾	重富中学校PTA会長	PTA連絡協議会代表者

令和7年7月7日現在

始良市教育委員会委員

番号	氏 名	役 職 等	備 考
1	前田 光久	教育長	
2	川畑 逸郎	教育長職務代理者	
3	岩元 真美	教育委員	
4	藤田 麻美	教育委員	
5	高橋 隆一郎	教育委員	

令和7年6月13日現在